



教育機関との連携について

令和4年4月
政策統括官付

1. 教育プログラム実証概要

神戸市稗田小学校の小学5年生、山形県立酒田光陵高等学校の2年生に対する実証を通じて、バリアフリー情報収集の体験を含む教育プログラムを作成した。

実証では、心のバリアフリーの講義を行った後、学校周辺の道路や施設のバリアフリー情報を収集し歩行空間ネットワークデータ整備ツールに入力、とりまとめを行った。

教育実証概要		
学校区分	神戸市立稗田小学校	山形県立酒田光陵高等学校
対象	小学5年生 3クラス 107名	商業ビジネス課 高校2年生 33名
実施日程	2021年 11月24日～12月16日(計10コマ)	2021年 10月24日、10月29日(計8コマ)
授業科目	総合的な学習の時間	「マーケティング」、「商品開発」

心のバリアフリー 調査計画・レク

- ・障害当事者から心のバリアフリーに関する講義
- ・調査時の役割分担
- ・調査項目の説明



校外授業 (バリアフリー調査)

- ・学校周辺の道路と施設のバリアフリー調査



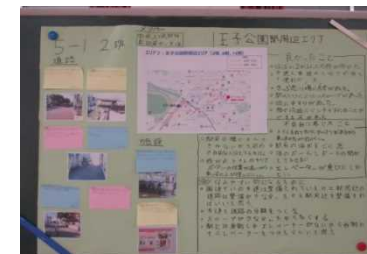
バリアフリー情報の 入力

- ・整備ツールの使い方のレクチャー
- ・整備ツールへデータ入力



とりまとめ・発表

- ・調査結果を大判用紙にとりまとめ
- ・調査で得た気づき、まちの改善点等を発表

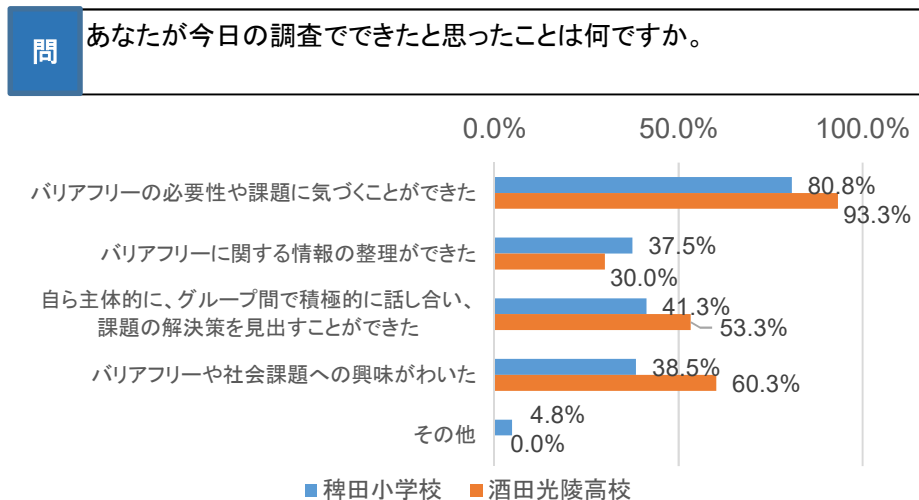
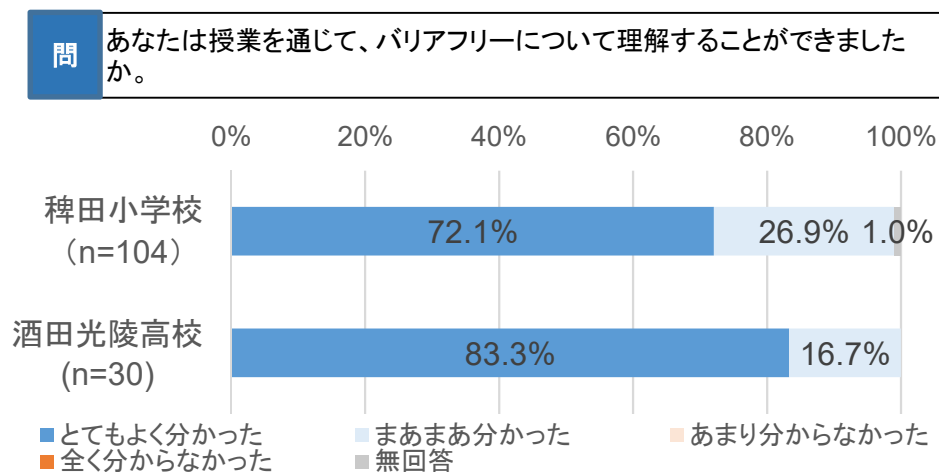




2. 教育プログラム実証の成果

今回作成したプログラムを実施することで、児童・生徒のバリアフリーに対する理解を促進できた。また、バリアフリー情報を整備ツールに入力・情報発信を行うことが、児童・生徒の主体的な学びにつながった点等について教員からも高い評価を得ている。

生徒へのアンケート結果

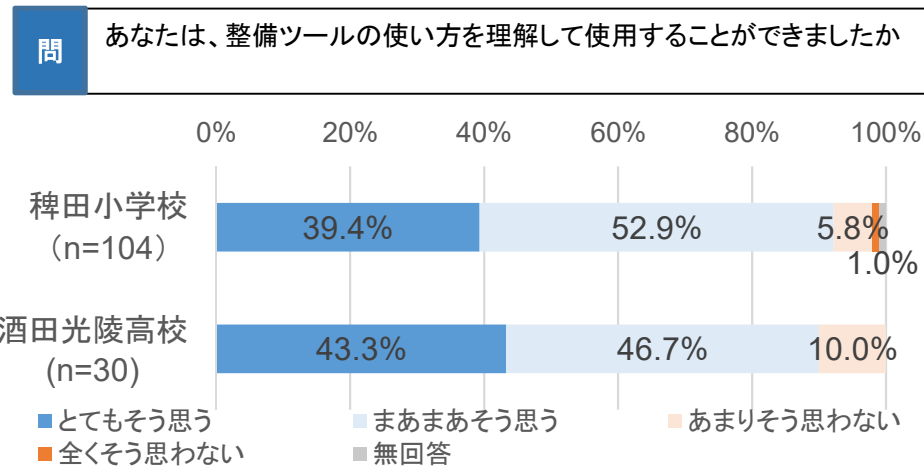


教員へのヒアリング結果

授業との親和性	相応しい授業科目	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では「総合的な学習(探究)の時間」、高校では「総合的な探究の時間」が最も授業の目的に適合している その他、地理、公民、情報、家庭科なども可能ではないか
	プログラムの評価	<ul style="list-style-type: none"> 障害当事者の参画により、障害者目線でバリアフリー調査や心のバリアフリーについて学ぶことができた。 心のバリアフリー授業に加え、校外調査や、整備ツールへの入力を教育プログラムに盛り込んだことにより、生徒が主体体験型の学習として、学習効果の高い授業となった。 特にバリアフリー情報を世の中に発信することで、社会とつながる機会を作ることができる。結果、生徒も責任感を持って主体的に授業に取り組んでいた。
教員主体での授業実施の可能性		<ul style="list-style-type: none"> 今回のような教育プログラムが構築されていれば、教員主体での授業の実施は可能だと思う。 心のバリアフリーや校外調査は障害者の参加が必須。

一部、整備ツールに対する改善の要望や慣れが必要との意見も見られたが、児童・生徒は整備ツールの利用方法を理解して歩行空間ネットワークデータを作成することができた。

生徒へのアンケート結果



児童・生徒が記入した内容の一例



高校生の作成データ

		整備ツールの課題(例)
地図関連	地図操作	• 地図上に道路の線を引く際、地図をスクロールすることができない。
情報の入力	選択項目	• 道路の場合、歩道、横断歩道などの道路の形状に関する選択肢に対応して、入力すべき項目が表示されるようにしてほしい。
	選択項目の補足説明	• 小学生などに使ってもらうには、選択項目にはフリガナを振る、または別途各項目の説明欄があると良い。



小学生の作成データ

教育と連携したバリアフリー情報の収集を全国的に広めるため、全国の自治体に教育啓発特定事業のガイドラインで教育プログラムを周知する。また、教育プログラムのテキストやワークシート等の資料を、バリアフリーナビプロジェクト広報用HPで公開し、各学校の授業での活用を促進する。

学校への普及に向けた取り組み



教育啓発特定事業のガイドラインの中で教育プログラムを紹介、全国の自治体に周知し、各学校へ取り組みを広げる

自治体が学校に教育プログラム実施の提案
国交省HPで教育プログラムを公開し、各学校の授業での活用を促進する

デジタル技術を活用したバリアフリー情報収集の事例 <兵庫県神戸市>

神戸市では、令和3年年度に神田小学校5年生を対象に、「総合的な学習の時間」において、バリアフリーまち歩き点検が実施されました。事前学習として、障害当事者である車椅子利用者の協力のもと、小学生に対して「心のバリアフリー」の授業を実施し、障害の種類や障害のある方の困りごとがレクチャーされました。

まち歩きでは、歩道等の段差や幅員、傾斜、施設の多目的トイレやエレベーター、スロープ等のバリアフリー情報を白地図に記録し、教室に戻った後、国交省が提供している「歩行空間ネットワークデータ整備ツール」を利用し、学校のタブレットを活用してデジタルマップ上にとりまとめました。とりまとめた内容は地域の住民への報告会で発表する予定であり、また、作成したデータは、誰でも閲覧することができるようオープンデータとして、公開する見込みです。

※授業の資料や取組内容の詳細について下記 URL で閲覧・ダウンロードが可能です。

国土交通省・心のバリアフリー_教育プログラムについて
<http://〇〇〇〇>

教育啓発特定事業ガイドライン(案)

バリアフリーナビプロジェクト

ABOUT / NEWS / CLOSSWALK / OPEN DATA / 関連サイト

NEWS

2022.03.04 「サイトオープンのお知らせ」

バリアフリーナビプロジェクト広報用HP